吉井貝塚（よしいかいづか）の断面のようす

貝層の下の方と、上の方ではどんな貝があるかな？

写真は、横須賀市吉井町台崎（三浦半島の東南端の久里浜海岸から１．５㎞ほど谷に沿って内陸に距てた丘陵）で発掘された吉井貝塚の断面模型です。この貝塚の時代は、縄文早期～中期にかけて、およそ7000 ～ 5000 年前につくられたものです。

写真の貝層をくわしく見てみましょう。

下の貝層と上の貝層に大きく分けることができます。いろいろな貝にまじって、イノシシの歯（左下）や土器（中央）を見つけることができます。ふくまれる貝の種類に注目して貝層をくわしく見てみましょう。貝層の下部と上部では、ふくまれる貝の種類が大きく異なることがわかります。

実際の展示は、神奈川県立歴史博物館※にあります。

※ http://ch.kanagawa-museum.jp/

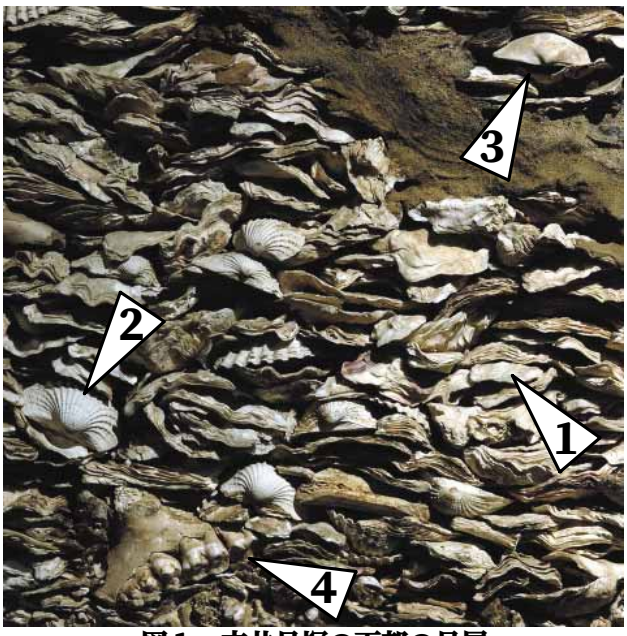

図１．吉井貝塚の下部の貝層

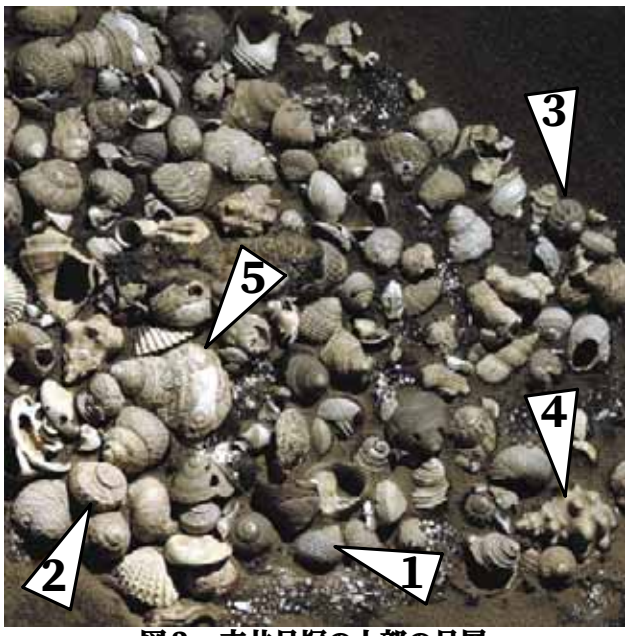

図２．吉井貝塚の上部の貝層

図１の貝
1．マガキ
2．ハイガイ
3．オキシジミ
4．イノシシの歯

図２の貝
1．イシダタミ
2．スガイ
3．クボガイ
4．レイシガイ
5．サザエ

参考文献

澤　祥・松島義章・澤　眞澄，1994．三浦半島平作川低地の完新世の古地理変遷．第四紀研究，33．

図１のように、貝塚の下の貝層には二枚貝が多く見られます。主な貝は、マガキです。さらに、ハイガイ、オキシジミ、ハマグリなどが見られます。これらは、内湾の潮間帯（ちょうかんたい）の泥底や砂泥底に生息する貝です。縄文時代早期から前期、この地域の人々はもっぱら干潟（ひがた）で貝をとっていたのでしょう。

一方、図２のように、貝塚の上の貝層には、巻貝が多く見られます。イシダタミ、スガイ、クボガイ、レイシガイ、サザエなどです。これらの巻貝は、波打ち際の岩礁（がんしょう）地帯にすむ種類です。

下の図３は、縄文海進時に横須賀市の平作川（ひらさくがわ）沿いの低地に海が広がったときの様子です。約6000年前には、古平作湾（こひらさくわん）は衣笠（きぬがさ）まで達しました。湾奥の干潟にはカキなどの干潟群集が生息していました。その後、海退（かいたい）がはじまり約5000年前の古平作湾は縮小するとともに、貝類群集の分布も変化しました。

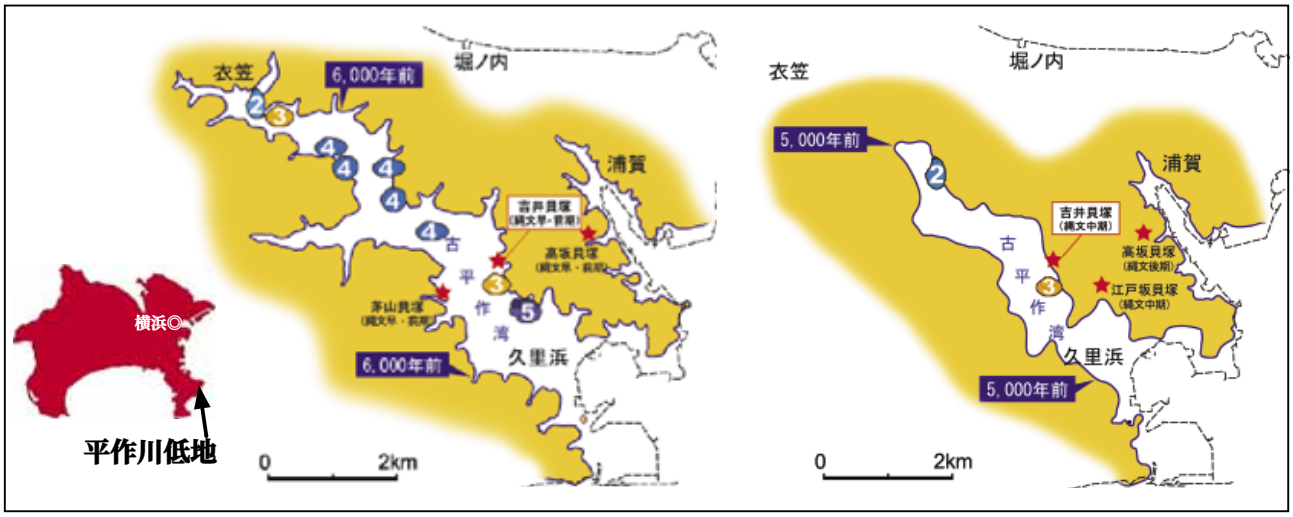

図３．6000年前と5000年前の古平作湾の古地理と貝類群集（澤ほか,1994に加筆）